

木の家住む住む

No.203
2023年 4月

発行：株式会社山田工務店

社長の 一棟入魂!!!

緑の色も日増しに濃くなってきました。
日頃は大変お世話になりありがとうございます。
先日の土曜日、勝浦さくら祭りのイベント会場にて、木のジャングルジム「くむんだー」を開催いたしました。
「くむんだー」は、弊社が木育活動の一環として取り組んでいる木製玩具になります。子供たちは木と触れ合う機会が少なくなりましたが、木と触れ合い、質感、香り、特徴を学んでもらっています。また、組まれた木材の上に上がり、木づちを使い「くさび」を打ち込む作業は、大工さんという職業を知ってもらう意味もあります。

当日は60人のちびっ子たちに参加頂き、短い時間でしたが楽しんでもらえたと思います。

プラスチック製品が家にあふれている昨今ですが、弊社では子供たちが木に触れ合う機会をつくり、そして木を好きになってもらい、少しずつでも生活の中に木が戻ることを願いながら木育活動を行ってまいります。



山田文夫

新連載 コラム

たかが工務店、されど工務店 文：山田加容子

私がお嫁に来たのは30年前...(早いものです)

その頃はまだ、亡き父と母と、現在の社長と、外注大工さんが10人ほど。

世間知らずのままお嫁にきて「工務店ってなににするんだろ?」から始まる嫁修行(笑)

工務店のイメージとしては、町の便利屋さんのような存在?(小さな工事や網戸張り替えとか...)くらいかなと、漠然とっていました。

私の実家も自営でしたが、どちらかという土木系で、まして手伝ってはおりませんでしたので、会社とか、工務店という実態がわからないままお嫁にきた、とんでもない世間知らずだったのです。

それもそのはず、実家は姉が継ぎ、私は毎日ピアノを弾き、音楽に明け暮れる呑気な学生生活を送っていたのですから...

そんな私が、決算書?損益計算書?なんですと(・・? 数字漬けの毎日。

ぬぉぉぉぉお!ムリムリムリーーー(雄叫び)

思えば、ここから私の人生の分岐点だったのかもしれない。

第一話 「工務店の花嫁」

